

令和7年4月11日

報道発表

浜松市 産業部
観光・シティプロモーション課
海外戦略グループ
産業振興課 新産業創出グループ
TEL : 053-457-2295



大阪・関西万博を機会に

「21世紀のものづくりのシンボル」の街として、世界への発信を強化 ～「産業ツーリズム」を喚起し、世界から投資を呼び込む～

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が令和7年4月13日～令和7年10月13日まで開催されます。本市では、海外の皆様が万博を目的に多く来日されるこの機会を捉え、産業を中心とした「21世紀のものづくりのシンボル」の街であることを積極的に情報発信していきます。東京と大阪の中間地点にある「地の利」を生かし、地域そして日本を支えてきた浜松市の産業を観光資源とする「産業ツーリズム」の需要を喚起するとともに、海外からの投資拡大を目指していきます。

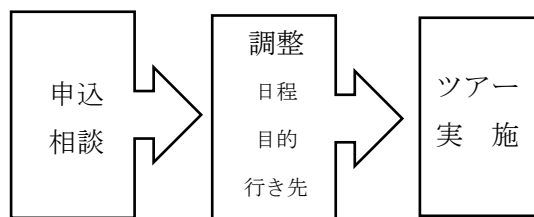
■浜松市の実力と将来性を世界へ/「産業ツーリズム」で投資を呼び込む

2025年は米国で数々の賞を受賞したドラマ「SHOGUN」により、海外からの関心の高い徳川家康の築いた出世の街、産業の街であることを機を逸することなく発信し、万博期間中に来日するビジネスパーソンや観光客に本市に立ち寄り、ものづくりのシンボルを体感いただくことで、将来の投資誘致などグローバルな新規ビジネスの開拓に繋げるため、主に下記の施策を進めます。

【施策1】 海外のメディアや企業関係者を招へいする視察ツアーの実施

産業ツーリズムの需要を喚起するため、海外メディアや企業関係者を対象（5人以上の団体を予定）に、市内企業や企業ミュージアムなどの見学を取り入れたオーダーメイドツアーを実施します。

■申込、相談先 shinsangyo@city.hamamatsu.shizuoka.jp



【施策2】 英語版ウェブサイトの立ち上げ

自動車から楽器、IT、空飛ぶクルマまで、グローバルな大企業から中小ベンチャー企業までが集まる浜松市の実力や将来性をアピールします。

・英語版ウェブサイトの制作

本市産業の過去から未来への歴史を説明するウェブサイト「21世紀のものづくりのシンボルをめざして」を日本語および英語で制作し、ものづくりのサイトや観光サイトに誘導します。

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/sangyoshinko/shinko/shien/sangyo_tokusetsu.html

使ってみよう！
外国人にも
日本人にも
わかりやすい

「やさしい日本語」



・SNSの英語発信

Instagram等を活用した更なる情報発信を行います。

Instagram https://www.instagram.com/visit_hamamatsu/

フェイスブック <https://www.facebook.com/visit.hamamatsu.en>

YouTube <https://www.youtube.com/@hamamatsujapan1932>



【施策 3】 広報活動

万博期間中、日本を訪れた外国人観光客に向けて、本市の産業・観光に関するイベントをSNSでお知らせし、本市を訪れるきっかけとなるよう広報活動を展開します。

タイトル	時期	場所	内容
浜名湖花フェスタ 2025	3 月 20 日 ～6 月 8 日	はままつフラワ ーパークほか	浜名湖周辺の花のスポット 17 ヶ所 で期間中時期ごとに美しい花が楽 しめる
浜松市×エヴァンゲリオン 「シン・ハママツ」計画	4 月 20 日～	JR 浜松駅及び 天浜線天竜二俣 駅周辺	エヴァンゲリオン立像と天竜材モ ニュメントを設置、ほか市内周遊施 策の実施
浜松まつり	5 月 3 日 ～5 月 5 日	浜松市内	450 年続くとされる大風揚げと御殿 屋台の引き回し
GEO KITCHEN SHIZUOKA	6 月 6 日 ～6 月 8 日	大阪・関西万博 ギャラリーWEST	豊かな風土に育まれた静岡の食の ポテンシャルを PR
「音楽の都・浜松」 コンサート	9 月 26 日	大阪・関西万博 EXPO ホール「シ ャインハット」	浜松が誇る楽器メーカーと協力し たコンサートの開催及び産業・観光 の魅力発信
家康公まつり 2025	11 月 予定	浜松城周辺	徳川家康公を顕彰する浜松の歴史 に焦点を当てたイベント
バイクのふるさと浜松 2025	12 月 6、7 日	浜松オート レース場	「世界に向けたバイクカルチャー の発信地」としてバイクの魅力を実 体験

【施策 4】 産業紹介コーナーの設置

- ・本市のものづくりの歴史や産業をアピールするため、市役所 1 階に設置するエヴァンゲリオン立像の隣に産業紹介コーナーを設置します。

浜松のものづくりの歴史

浜松市は繊維産業が盛んな遠州地方の中心地として栄え、自動織機からオートバイ、自動車といった製造業が発展、スズキがインドに進出して大きなシェアを現地で得るなど産業は国際化しています。



21世紀のものづくりのシンボルをめざして



現在の JR 東海浜松工場を明治時代に誘致したことも、浜松市内の製造業のすそ野が広がりました。また「テレビの父」と呼ばれる高柳健次郎氏が、世界で初めてブラウン管に「イ」の字を映したことが、光産業の礎にもなりました。そして日本の楽器産業の発祥の地でもあり、ヤマハはピアノ生産台数世界一の実績を誇ります。「空飛ぶクルマ」など、未来に向けた産業の萌芽もあり、市としてベンチャー企業を支え育成する制度も整っています。一方で世界的に関心が集まっている脱炭素経営に向けた「経営支援コンソーシアム」も活動を活発化させています。

■中野祐介市長のコメント



浜松市は厚い産業基盤を有するまちであり、日本を代表する大企業から固有の高い技術力を持つ中小企業まで、多くの企業が集積しています。大阪・関西万博の開催を機に、本市の産業をより多くの皆様に知っていただく施策を展開するとともに、市民・市内企業等のご協力をいただきながら、関係者一丸となって国内外のお客様を温かくお迎えいたします。